

# マツタケの発生促進



試験地（中央やや上側のトドマツの多いところ）

マツタケは日本を代表する食用きのこの一つですが、北海道のマツタケの発生状況は今までほとんど調査されていません。

トドマツ天然林に設置した試験地では、広葉樹などが混みすぎるとマツタケは発生しにくく、また、落葉層が厚いとマツタケの菌糸成長が抑制されることが分かりました。そこで、マツタケの発生促進のため、除間伐や落葉層の除去などを行いました。

処理区ではマツタケの発生箇所が増え、発生本数も徐々に増加する傾向にあります。また、マツタケの発生期間が長くなったり、早い時期に発生が集中したりします。このような処理による環境改善によって、マツタケが発生しやすくなったと考えられます。

適切な処理によってマツタケの発生が促進されることが分かってきましたので、今後、一層効果的な発生促進方法について検討する予定です。



処理区



無処理区



処理区に発生したマツタケ